

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	大田区矢口 2-21-16-101
園名	大田区立矢口第二保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語に親しみをもってみよう

<テーマの設定理由>

当園が開園以来継続して行っている教育的活動の中の『英語』について歌や手遊びを交えることでより興味を持っておこなう。また、英語の活動の時間だけではなく、ネイティブ講師に普段の活動にも入ってもらうことにより、日常生活から生活に触れる機会を作るようにする。

2. 活動スケジュール

【問いかけ】

講師が話している言語について(「サストリ先生が話している言葉知っている?」「どんなことを言っているのかな?」)など、興味を持てるような声かけをする。

【環境をデザインする】

英語に興味を持てるように、毎月実施する内容をこどもたちが見やすい廊下に貼ってみる。

【探究活動を実践し、記録する】

歌やゲーム、クラフトを織り交ぜながら、英語に親しみを持てるようにする。様子は写真や動画に記録する。

1 歳児:歌・手遊び・絵本(11 月～)

2 歳児～4 歳児:歌・手遊び・絵本・カードを使った遊び

5 歳児:歌・手遊び・絵本・カードを使った遊び・クラフト

※幼児クラスは、朝の会の時に流れを英語で説明する、給食の食具を配ってもらうなど、日常生活から講師と関わる機会を作る。

【振り返りや共有】

こどもたちが特に興味を持ったカリキュラム(歌)などは、その月だけで終わらず、引き続き継続する。また活動の時間は時期を見ながら少しずつ延ばすなど検討していく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定



毎月の実施内容を玄関や廊下など、
こどもや保護者の見えやすいところに
掲示する。

それによって、こどもたちの興味につなげ
たり、わくわく感を育んだりする気持ちを
大事にする。

また、こどもと保護者の家庭での会話の
一つとして使ってもらえるようにする。

4. 探究活動の実践 ①

<活動の内容>

【乳児クラス】

「Wheels on the Bus」「Squidinkidink Song」をこどもたちと一緒に歌う。

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

定期的に様々な歌を歌うが、この 2 曲に関してはノリもよく、こどもたちにもとても人気である。

「Squidinkidink Song」はかわいらしい振り付けと途中に出てくる「Oh!」という言葉が人気で、こどもたちから「これ歌いたい!」とのリクエストも多い。

「Wheels on the Bus」は、歌詞に出てくる“バスのタイヤが回る”“バスに乗っている赤ちゃんが泣く”“バスに乗っているみんなが上下に揺れる”などの言葉を動作も交えて表現しており、乳児のみならず、幼児にも人気の 1 曲である。講師がこどもたちを自分の膝に乗せて動作を行うことを皆とても喜んでいる。



5. 探究活動の実践 ① 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日本ではなかなか発音しない言葉を曲に合わせて口ずさむことはこどもたちにとってはとても新鮮なのだと感じる。「Wheels on the Bus」は、様々な動きをするときに英語の講師が 1 名指名して膝に乗せながら披露をすることで、友だちの前で行う楽しさ、時には恥ずかしさも感じながら、自信にもつながっていると思う。

4. 探究活動の実践 ②

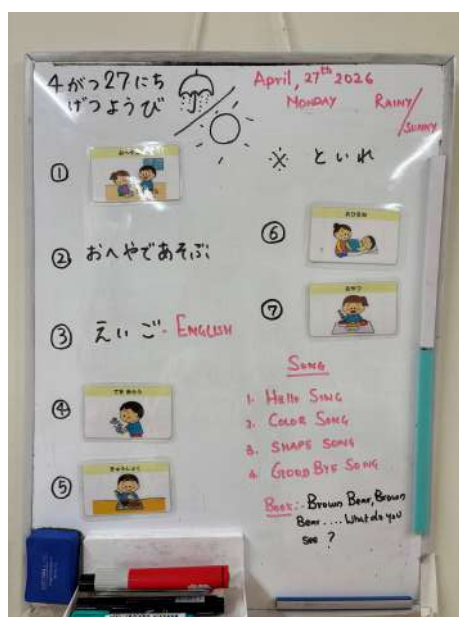
<活動の内容>

【幼児クラス】

本日の日付、曜日、天気を日本語と英語で伝える。

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

英語活動の時間だけでなく、普段から保育に入ってもらっている中で、こどもたちが英語に親しみを持てるようにする。毎日一日の流れを記載するホワイトボードに「今日の日付、曜日、天気」を日本語と英語で表記し、朝の会で実際に口に出してみることで、自然とわかるようになってきている。同時に、その日に行う英語の歌なども記載することで、「これって何の歌？」とこどもたちからも質問が出てくるようになった。



5. 探究活動の実践 ② 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日本語と英語があることを表記することでこどもたち自身が日本語と英語があるということを理解し、自然に興味を持てる環境ができている。会話の中でも「今日は Sunny だね」といった言葉がよく聞かれるようになり、保護者からも家で話すようになったとの報告なども増えた。親子での会話にも役に立っているようである。

4. 探究活動の実践 ③

<活動の内容>

【2～5 歳児クラス】

色や形を英語で表現する。

<活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

色のついたカードをこどもたちに提示し、「What is this color?」と質問する。当てられた児は、前に出ていき、自分が思うカードを指さす。指さし後に再度何色か、英語で繰り返すことで色を英語で覚えていく。

少しレベルを上げて、色からイメージする野菜や果物を言ってみたり、「What things are green Vegetable?」などと聞いてみたりする。繰り返しおこなうことでこどもたちの身についてきている。



5. 探究活動の実践 ③ 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「間違えたらどうしよう」と最初は身構えていたこどもも、正解して褒められている他児を見ることで「自分もできるかも?」という挑戦する気持ちが芽生えて、自信につながっている。英語で色を知るだけでなく、色や形につながる別の言葉で発してみるなど、少しずつ発展させていくことで、「英語で〇〇は△△っていうんだ」という発見が子ども自身の中に生まれることを知った。